（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和６年４月 17 日

県立鎌倉支援学校長

令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容 具体的な方策	取組の内容 評価の観点	校内評価 達成状況	校内評価 課題・改善方策等	学校関係者評価 （2 月 22 日実施）	総合評価（3 月 18 日実施） 成果と課題	総合評価（3 月 18 日実施） 改善方策等
1	教育課程 学習指導	・自立と社会参加をめざして、各学部の教育内容の標準化に向けた取り組みを推進し、それぞれが系統性のある教育課程の編成や組織的な授業改善に取り組む。	①各学部のカリキュラムの見直しを行う。 ②意思決定支援を理解する。	①部活動等、各学部の課題に応じたカリキュラムの見直しを行う。 ②意思決定支援を研究テーマにし、取組む。	①部活動等、各学部の課題に応じたカリキュラムの見直しを行うことができたか。 ②意思決定支援を理解することができたか。	①中、高Ａ、高Ｂ本校は、部活動の見直しができた。各学部の課題に応じたカリキュラムを検討し、実践できた。 ②研究テーマとして、各学部で取組んだ。意思決定支援を理解することができた。	①来年度、分教室は部活動に替わるカリキュラム作りを進め、部活動の見直しを行う。 ②意思決定の力を伸ばす授業計画や支援の手立ての確立等、実践を進めていくことが課題である。	防災教育に地域の人を巻き込んでいることはよい。防災教育や避難訓練に参加できなくても、情報が伝わる仕組みが欲しい。	①中高で連携し同じ方向性で見直しができた。特体連の対応が課題である。 ②助言指導を受け、研究を推進できた。実践を深めることが課題である。	①分教室の部活動の見直しを来年度行う。 ②特総研の助言指導は継続し、実践を深める。ICT 機器も積極的に活用する。
2	（幼児・児童・）生徒指導・支援	・児童・生徒一人ひとりの個性を尊重し、よりよく生きるための多様な教育的ニーズに対応した支援、指導を組織的・連携的に行う。	①相談支援業務内容について保護者への理解を図る。 ②通学支援事業を活用し、通学支援利用を広げていく。	①個別面談期間等を活用し、相談支援のパンフレット等の配付や内容説明を行う。 ②事業所や訪問看護ステーションとのネットワーク作りに取組む。	①相談支援業務内容について保護者への理解を図ることができたか。 ②通学支援事業を活用し、通学支援利用を広げることができたか。	①保護者会、茶話会、通信等で適宜・適切に発信できた。在宅訪問の保護者に向けても丁寧に対応できた。 ②タクシー利用者８名。利用回数が増えた。SB 利用者も９月から毎日乗車できた。	①保護者アンケートではわからないの回答が 21%で改善ありの評価。学部・分掌との連携を強化する。 ②手続きが煩雑で、保護者、学校の負担が大きいことが課題である。	わからないは、相談や説明が十分伝わり切れていない結果である。もう少し踏み込んで、教員が理解し動いていけるとよい。担任以外でも連携があるとよい。	①発信の場面は増えたが、わからないの回答が改善ありは課題である。 ②利用回数は増加した。保護者への円滑な引継ぎが課題である。	①保護者のニーズを把握し、担任レベルで丁寧な説明ができるようにする。 ②学部や分掌で組織的に動けるよう整えていく。
3	進路指導・支援	・一人ひとりが将来をより豊かに自分らしく生きるために、障がいの特性や発達段階に応じた社会生活に移行できる進路指導・支援を行う。	①進路指導の学習会を実施し理解を図る。 ②保護者がわかる支援通信を発行する。	①進路指導の学習会を実施する。 ②わかりやすい用語で支援通信を発行する。	①進路指導について理解を図ることができたか。 ②わかりやすい用語で支援通信を発行することができたか。	①小、高 A、高 B 本校の教員対象の進路学習会を実施できた。 ②進路と相談で連携できた。保護者の質問に答える内容の支援通信を発行できた。	①②進路、通信に係る保護者アンケートは、肯定的意見 93%、97%で良好の評価。今後も教員の学習会、保護者のニーズに応える通信を発行する。	進路学習を部門・発達段階に応じて実施されていてよい。小学部から教員や保護者の進路学習に企業を活用していけるとよい。	①②保護者のアンケートでは良好な評価を得られた。教員の進路・相談の理解を深めていくことが課題である。	①教員向け進路学習会を全学部実施する。企業の活用も積極的に行う。 ②教員の相談業務、保護者対応の理解を深める。
	地域等との協働	・共生社会の実現に向け、障がいのある子どもの理解者・支援者を増やすために地域とのつながりを広げ、深める教育活動を展開する。	①鎌倉支援学校の様子を地域に発信する。 ②目的別資源マップ作りに取組むことやボランティアの活用を広めていく。	①「鎌倉支援学校だより」の毎月発行や地域のタウン誌等に情報を発信する。 ②目的別に資源マップを作る。ホームページ等を活用し、広くボランティアを募る。	①「鎌倉支援学校だより」の毎月発行や地域への情報発信はできたか。 ②目的別資源マップ作りに取組むことができたか。また、ボランティアの活用を広めることができたか。	①鎌倉支援学校だよりを毎月発行できた。ホームページを更新し、授業や行事の様子を発信できた。 ②目的別資源マップの情報を収集し、各学部での活用に役立てた。各学部でボランティアの活用が再開し、活動の広がりを見せた。	①ホームページでの発信は増えたが、どれぐらい広がっているかの検証不足はある。目的を明確にする必要がある。 ②ボランティアを活用した授業づくりを推進する。ボランティアの受け入れの態勢づくりは課題である。	子ども達が知りたいこと、将来やってみたいことを考えて、講師を招いて学習を行うとよい。企業の人材を招いてセミナー開催も行うこともできる。	①ホームページの積極的活用ができた。地域のニーズに応える対応が課題である。 ②地域の人材を活用した授業ができた。今後の積極的活用が課題である。	①地域と学校のニーズを明確にし、発信方法を考えていく。 ②ボランティアの受け入れ態勢を整理していく。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （2 月 22 日実施）	総合評価（3 月 18 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
5	学校管理 学校運営	・不祥事防止に努め、同僚性の良質化を図り、職員一人ひとりが当事者意識を持ち、不祥事ゼロをめざす。 ・児童生徒の安全と健康を守り、良好な教育環境の整備を推進する。 ・教員の働き方改革を推進するための教員の意識改革を図る。	①ヒヤリハット・アクシデントのケース会を開き、事故を未然に防ぐ。 ②福祉避難所開設準備の訓練を行う。 ③業務の効率化を図る。	①ヒヤリハット・アクシデントのケース会や報告を学部で行う。 ②夏季休業期間中に訓練を実施する。 ③業務を洗い出し、フォーマットを活用し、業務を見える化する。	①ケース会で検討された手だてが実行できたか。 ②夏季休業期間中に訓練を実施することができたか。 ③フォーマットを活用し、業務の見える化が図れたか。	①情報共有を迅速に行い、初期段階の報告を意識し、未然防止に繋げることができた。 ②福祉避難所開設準備研修会を実施できた。 ③グループ・係運営シートを作成し、業務の見える化を推進できた。	①ヒヤリハットの報告を行い、情報共有する流れはできているが、スピード感にかけるケースもあることが課題である。 ②研修会を通して、新たな課題が見えた。学校の防災力を高めることが次の課題である。 ③仕事内容を共有することはできたが、助け合うことや効率化は不十分だったことは課題である。	福祉避難所になっていることで、様々な場所で鎌倉支援学校の名前が出てくる。避難所と勘違いされることがあるので、チラシがあるとよい。鎌倉市の社会福祉協議会にチラシを置く場所がある。	①ケース会の情報共有のシステムはできている。未然防止に繋げる意識作りは継続課題である。 ②福祉避難所開設準備の訓練は実施できた。学校の防災力の向上が課題である。 ③teams などの活用で、係内の情報共有や伝達ができた。各分掌の効率化については課題が残る。	①同僚性は発揮されるよう、風通しの良い職場づくりを推進する。 ②学校運営協議会の部会を学校防災と改め、学校の防災力の向上を図る。 ③業務の整理を学校全体で意識し、取り組む。